

# この小林にもう一期だけ

小林豊彦候補は午前九時から弥彦、弥彦神社一ノ鳥居前で第一声。八十五人余りの支持者が集まるなか、小林候補は「ありがたいことにまだまだ気力、体力は十分。ぜひこの小林豊彦にもう一期だけ村政を任せていただきたい」と、自身最後の任期としての三期目の当選を訴えた。

小林候補の陣営では午前八時二十分から弥彦神社拝殿で祈願祭を行い、三選を祈願。そのまま徒歩で一ノ鳥居

前に移動し、街頭第一声を挙げた。

一ノ鳥居前には支持者や選挙スタッフなどが集まったほか、鈴木力燕市長が応援に駆け付けた。

必勝鉢巻きにたすき姿の小林候補は「村民の皆さんの理解と支援、協力のおかげでこの八年間、弥彦のために村民のために働かせてもらった。私としてはとにかくできることはすべてやらせてもらった。私だけの力でなく、弥彦そのものに大きな力、魅力があると常々感じている。弥彦のも

ももとの力がなければ、どんなにあがいてもやっつていられなかった。弥彦に生まれたこと、弥彦に育つたこと、弥彦のために尽くすことができたことに心から感謝している」と二期・八年間の支援、協力に感謝した。

三期目に向けては「行政はすべて息の長い仕事。簡単に結果が出るものではない。JR矢作駅前前の県道の歩道は当選したときから県にお願しているのにまだできない。ようやく調査費がついて、あと三年。たった

六十歳の歩道をつくるのに十年かかる。それだけ辛抱強くやらなければならぬ。あと一期・四年間、私にもう一度、任せていただきたい。四年間でやらなければならぬことを十六の公約に掲げているが、これをすべてやって、次の方にバトンタッチをさせていきたい」と支持を訴えた。

最後は渡辺和也選対副本部長の音頭で頑張ろうコール。小林候補は集まった支持者と握手をして、選挙カーに乗り込み、街宣に出発

した。

三選をめざして頑張ろうコール

八十五人が集まった一ノ鳥居前の

「まだまだ気力、体力は十分。ぜひもう一期だけ村政を」と訴える小林候補

